

2025年8月6日

**日本プロテオーム学会（2024年～2025年理事）**  
**2025年 第四回理事会 議事録**

開催日時：2025年8月6日(水) 11:00～13:00

会場：かずさアカデミアホール 第4会場(会議室101)

出席者(50音順, 敬称略): 足達俊吾、足立淳、阿部雄一、荒川憲昭、石濱泰、今見考志、岩崎未央、植田幸嗣、太田信哉、奥田修二郎、小原收、川上隆雄、川島祐介、河野信、木村弥生、小寺義男、小林大樹、榊原陽一、武森信暁、田中恒平、野口玲、増田豪、松本俊英、松本雅記、三城恵美、渡辺栄一郎、大槻純男、近藤格

欠席者(50音順, 敬称略):

杉山直幸

**1. 会長挨拶(松本)**

- 理事に対し、日頃からの学会運営への感謝とともに、引き続きの協力依頼があった。
- 今期理事会の最終理事会になること、年末に改選が行われることの説明があった。

**【報告事項】****1. 会員状況(木村)**

(1) 会員数 (2025年7月23日現在)

種別	会員数
個人会員	個人会員 586名 (個人会員:478名, 個人会員(法人登録):108名) (昨年:560名、一昨年:521名、本年度新規入会者:53名)
名誉会員	4名
学生会員	289名 (191名 <sup>※1</sup> ) (昨年:270名、一昨年:380名、本年度新規入会者:29名)
法人会員	15社 (昨年 13社、一昨年 14社)
合計	878名+15社 (昨年:901名+15社)

※1 メール不達者除外

- 上記の通り、個人会員、学生会員、法人会員はいずれも今年度は若干増加したこと、また、名誉会員が1名増えることの報告があった。規約に基づき2021年から2024年の会費未納会員を自動退会としたことについて報告があった。

**2. JPrOS2025大会(小原)(資料1)**

- (1) 参加人数:404名(名誉会員1名、会員178名、学生46名、非会員38名、招待演者33名、協賛企業91名、かずさDNA研究所(非会員)17名)(2025年7月30日現在)
- (2) 大会収支案:収入16,110,000円(かずさからの共催費、200万円を含む) 支出14,328,785円 予備費1,781,215円(学会に50万円返金、税金112万円程度、残り16万円)(2025年7月30日現在)
- (3) 協賛企業数:計48社+2団体
- (4) (展示34社+2団体、広告11社、ランチョン・ナイトセミナー8社、飲料提供1社)
- (5) 演題:基調・特別講演・国際講演6、受賞講演1、指定演題44、一般演題24、ポスター演題98

- 小原大会長より今大会の概要説明があり、最終的な参加者数は 480 名以上となった。一方で、会場の収容限度により、一部企業の参加をお断りせざるを得なかったことについても報告があった。

### 3. JPrOS2026 大会(大槻)(資料 2)

- (1) 大会長 大槻 純男(熊本大学)
- (2) 開催場所 熊本城ホール 3F
- (3) 開催期間 2026 年 7 月 21 日(火) ~ 7 月 23 日(木)

- 下記審議項目に記載

### 4. HUPO、AOHUPO 活動報告(武森、石濱)

#### (1) HUPO 関連

- ・HUPO 2025: November 9-13 (Toronto, Canada)

#### (2) AOHUPO 関連

- ・12<sup>th</sup> AOHUPO 2025: October 11-14 (Guangzhou, China)

#### (3) その他

- ・HUPO イニシアチブ: HPP について

- HUPO の新しい企画として Friends of HUPO としてイニシアチブをアピールする場が提供され(ポスター)、現在募集中であることの周知があった。
- JPrOS Pre-Congress Webinar 2024 “Top-Down Proteomics”を開催したことの報告があった。

### 5. JPrOS イニシアチブ(石濱、武森、松本)

#### (1) Japan Proteome Standard Repository/Database (jPOST)

#### (2) Journal of Proteome Data and Methods (JPDM)について

- JPDM の科研費については、今年度が現行プロジェクトの最終年度であり、来年度以降に向けて新たな科研費申請(5年間を想定)を行う予定であり、申請に際しての協力依頼があった。
- JPDM70 本(国外 35 報、国内 35 報)を目標として目標達成のために協力の依頼があった。また、投稿促進のためのセミナーを継続する旨が報告された。
- 科研費不採択の場合は年間 26 万円の J-STAGE 費用を学会が負担する可能性があり、その際は理事会で稟議が必要となる旨の説明があった。

#### (3) Top-Down Proteomics (Initiative for Gel-based Human Proteoform Atlas) (武森)

#### (4) イニシアチブに向けた準備・実施状況

- 小寺先生より、小原先生と共同で進める「質量分析の診断応用」について JPrOS イニシアチブとして採択・活動することを希望し、ホームページ等で現状を発信したいとの考えが示され、準備が整い次第理事会に提案する旨の報告があった。

### 6. 学会誌発刊(武森、小林、渡辺)

#### (1) Proteome Letters

#### (2) JPDM について

2025 年 10 巻 1 号について、以下の総説 3 報が校正済みであることの報告があった。

- データ公開とデータ論文～データ論文とは何で、何故必要で、何が求められるのか～  
吉沢 明康, 小林 大樹, 河野 信
- 皮膚常在菌と角層の機能解明におけるプロテオーム解析の役割

伊東 可寛, 川島 祐介

- 希少がん研究におけるプロテオーム解析の課題と展望:リバーズ・イノベーションを導く臨床検体とがんモデルの可能性

近藤 格

- 義務付けられる Open Access については 7 月の JST セミナーで具体的な方法を把握したこと、Proteome Letters は現状フリーアクセスであるがオープンアクセスではないため CC BY 4.0 ライセンスを採用して Gold Open Access とすることを目指し、規約改定原案ができ次第、年内にメール審議を進める予定である旨の報告があった。

## 7. 日本プロテオーム学会賞等受賞者(近藤)

### (1) 学会賞

足立淳 (医薬基盤・健康・栄養研究所)

授賞題目:がんプロテオミクス医療基盤の開発と応用

### (2) 奨励賞

・該当なし

### (3) 山下雅道賞

小形公亮 (京都大学大学院薬学研究科)

受賞理由: ASMS2025 における発表、Emory University および Weill Cornell Medical College における研究活動

- 慣例となっていた推薦者への採否説明について賛否の意見が出された。採否理由は選考委員内で引き継ぎ基準を一致させること、公募要領に採択理由等は開示しない旨を明示することが共有された。また、今後は推薦者への結果報告は行わない方針とすることが決定した。

## 8. 日本プロテオーム学会名誉会員(松本)

成松久先生

- 今年度、執行部より成松久先生の推薦があり、受任された旨の報告があった。

## 9. KHUPO および APS との交換講演(松本)

2010年 KHUPO 山本 格、木下英司

2010年 JHUPO Ho Jeong Kwon (KHUPO 会長)

2011年 KHUPO 平野 久

2011年 JHUPO Je Kyung Seong (Seoul National Univ), Kang-Sik Park (Kung Hee Univ)

2012年 KHUPO 山田 哲司

2012年 JHUPO Kwang Pyo Kim (Konkuk University)

2013年 KHUPO 朝長 毅

2013年 JHUPO KHUPO7 名の HUPPO2013 によるサポートで対応

2014年 KHUPO 近藤 格 (KHUPO 側からの推薦)

2014年 JHUPO Byoung Chul Park (Korea Res. Inst. of Biosci. & Biotechnol.)  
2015年 KHUPO 荒木令江  
2015年 JHUPO Bonghee Lee (Gachon University)  
2016年 KHUPO 小松節子, 野呂 絵里花  
2016年 JHUPO Kwang Pyo Kim  
2017年 KHUPO 服部成介, 野村文夫  
2017年 JHUPO Cheolju Lee  
2018年 KHUPO 石濱泰  
2018年 JProS Jo-Yoel Cho  
2019年 KHUPO 大槻純男, 太田信哉  
2019年 JPrOS Jinhwan Eugene Lee  
2020年 KHUPO 奥田修二郎, 紀藤圭治, 松本雅記 (中止)  
2020年 JPrOS 中止  
2021年 AOHUPO (KHUPO 主催) 奥田修二郎, 紀藤圭治, 松本雅記  
2021年 JPrOS Kim Youngsoo (Seoul National University College of Medicine)  
2022年 KHUPO 足立淳  
2022年 JPrOS Jin Han (Inje University)  
2023年 KHUPO 中止  
2023年 JPrOS Jin Young Kim (Republic of Korea)  
2024年 JPrOS (KHUPO から) Kwan-Pyo Kim (Kyung Hee University)  
2024年 JPrOS (APS から) Morten Thaysen-Andersen (Macquarie University)  
2024年 APS 足立淳  
2025年 JPrOS (KHUPO から) Jae-Young Kim (Chungnam National University)  
2025年 JPrOS (APS から) Nichollas E Scott (University of Melbourne)  
2025年 APS 植田先生

- KHUPO への派遣については現時点で正式な依頼はなく、非公式の交換講演依頼がある状況であり、今後、書面での約束とすることや、招聘プロセスを明文化し、3年ごとの見直しを可能とする案が提示された。APSについても口頭合意で進んでいる現状が共有された。

## 10. 各担当理事からの報告

### (1) 学術企画活動(岩崎)(資料3)

- 今年度より分子生物学会に加え日本蛋白質科学会年会および日本生化学会でもセッションを実施することが報告され、第25回日本蛋白質科学会年会では「細胞制御機構の包括的理解のためのプロテオーム解析技術」(オーガナイザー:小寺義男・太田信哉)、日本生化学会では「プロテオーム解析技術が拓く新しい生命現象」(オーガナイザー:今見考志・太田信哉)の企画が紹介された。

### (2) 教育活動(今見)(資料4)

- 第12回プロテオミクス・トレーニングコース「伝授します!プロテオミクスデータ解析の考え方と方法」は2025年2月27日~28日に理化学研究所横浜キャンパス交流棟ホールで開催され、Perseusによる統計解析やRによる可視化、ChatGPT支援型解析デモ、講師による実例紹介とインフォマティクス講義が行われ、未経験者を中心に21名が参加した。アンケートの結果、高い満足度が得られたこと、参加者の約半数が非学会員であったことの報告があった。今後はコミュニティとして継続的に成長

する仕組みや、年会での同様のセッション実施が提案された

- 次回第13回トレーニングコース「FFPE 検体からの抽出および質量分析&データ解析(仮)」は、担当 松本先生、北里大学相模原キャンパスにて2026年2月24日以降に開催予定である旨が報告された。

(3) 国際活動(石濱)

- 特になし

(4) 広報活動(河野)

- 特になし

(5) 学術活性化(小寺)

- HUPO 理事選挙について、本年度も JPrOS から1名の立候補者を擁立する予定であり、理事選挙への投票(HUPO 開催前)への投票協力を理事の先生方に呼びかけるとともに、学会通信を通じて会員への投票依頼を行う予定である旨報告があった。
- JPrOS Presentation Award 確定の5名について、JPrOS からの30,000円/人の支援に加えHUPOからの追加の支援金(12,000円/人に相当)が学会に振り込まれ学会から受賞者へ配布する方式であることの報告があった。

## 11. 2024-2025 年度主催・共催・後援・協賛実績(増田)

(1) 主催および共催 日本プロテオーム学会 2025 年大会(2025.8.6-8.8、かずさアカデミアホール、千葉)

(2) 後援 第21回北里プロテオーム研究会(2025.3.10、主催:北里大学理学部附属疾患プロテオミクスセンター、北里大学相模原キャンパス)

(3) 協賛 日本バイオインフォマティクス学会 バイオインフォマティクス技術者認定試験  
(第1回 2025.7.12-8.10、第2回 2025.11.8-12.7、主催:日本バイオインフォマティクス学会)

(4) 共同シンポジウム 日本蛋白質科学会合同シンポジウム、日本プロテオーム学会 2025 年大会  
(2025.8.6-8.8、かずさアカデミアホール、千葉)

- 上記の主催・共催・後援・協賛が実施されることについて報告があった。

## 12. その他(松本)

(1) システム改変について報告

- 会員管理システムに関して、学会規約との整合性に関する議論が継続中ではあるが、本年度中の更新・運用開始を予定しているとの報告があった。来年度大会の運用方針については、システム更新の進捗に応じて検討が必要であること、またシステム移行に際して、入会停止期間(約1か月)が見込まれ、その対応が必要である旨が報告された。

(2) 受賞者の掲載方針について報告

- JPrOS が直接関与する内容のみを学会ホームページに掲載し、それ以外は学会通信で周知する方針とする旨が報告された。

(3) 歴代理事リストのホームページ掲載について

- リストが完成し、学会ホームページに掲載済みである旨の報告があった。

## 【審議事項】

## 1. 2024年度収支決算報告および予算案(荒川、三城)

## 【2024年度 一般会計収支決算書】

2024年4月1日～2025年3月31日

経常収益（収入）	16,431,136 円
《内訳》	
受取会費	1,310,000 円
（個人会員）	316,000 円
（法人会員）	650,000 円
（大会システム使用料）	344,000 円
事業収益（2024年大会）	10,799,000
（受取参加料）	2,128,000 円
（受取広告料）	781,000 円
（受取展示料）	4,730,000 円
（受取懇親会費）	960,000 円
（ランチョンセミナー）	2,200,000 円
受取補助金等	4,300,000
（青森MICE助成金 2024年大会）	500,000 円
（日本臨床プロテオゲノミクス学会）	100,000 円
（JPDМ国際情報発信強化）	3,700,000 円
雑収益	21,204
（受取利息）	1,404 円
（雑収益）	19,800 円
特定資産運用益	932
（特定資産受取利息）	932 円
経常費用（支出）	16,648,351 円
《内訳》	
事業費	15,635,227 円
大会	11,899,000 円
（会議費）	123,200 円
（懇親会費）	1,277,000 円
（旅費交通費）	516,860 円
（通信運搬費）	102,080 円
（消耗品費）	62,390 円
（印刷製本費）	371,700 円
（賃借料）	2,839,653 円
（支払手数料）	68,900 円
（委託費）	6,537,217 円
助成	3,736,227 円
（会議費）	12,600 円
（懇親会費）	0 円
（旅費交通費）	2,085,874 円
（通信運搬費）	106,445 円
（支払手数料）	33,858 円
（委託費）	1,467,450 円
（雑費）	30,000 円
管理費	1,013,124 円
（通信運搬費）	574 円
（印刷製本費）	306,070 円
（支払手数料）	22,591 円
（委託費）	653,889 円
（雑費）	30,000 円

2024年度 正味財産増減額；	△ 485,870 円
➢ 税引前一般正味財産増減額(経常収益 - 経常費用)；	△ 217,215 円
➢ 法人税、住民税及び事業税；	268,655 円
➢ 指定正味財産増減額；	0 円

正味財産合計(純資産)	12,911,428 円(2024年度繰越金)
➢ 2023年度 繰越金；	13,397,298 円
➢ 2024年度 正味財産増減額；	△ 485,870 円

## 【貸借対照表】

2025年3月31日現在

(資産の部)

<b>資産合計</b>	<b>21,647,949 円</b>
流動資産	
現金預金	21,647,949 円
学会事務局 普通預金	
ゆうちょ銀行 (098 35543261)	12,783,728 円
(通常貯金	7,783,728 円)
(定額貯金	5,000,000 円)
奇数年大会事務局 普通預金	
ゆうちょ銀行 (738 01404871)	8,623,738 円
偶数年大会事務局 普通預金	
ゆうちょ銀行 (408 55997051)	169,376 円
JPDM国際情報発信強化 普通預金	
三菱UFJ銀行 (0195336)	5,107 円
2025年大会 前払い金	66,000 円
固定資産	0 円

(負債の部)

<b>負債合計</b>	<b>8,736,521 円</b>
未払費用(会計事務所3月分、中西印刷未払い分、JPDMバイト代不足分)	182,172 円
前受会費(2025年度法人会費)	150,000 円
前受金(2025年大会協賛金)	8,190,000 円
預り金(会計士事務所 源泉税 2025年1~3月)	9,749 円
未払法人税等	204,600 円

資産合計 — 負債合計 = 12,911,428 円 (正味財産合計)

2024年度 会計監査報告書

令和6年度（2024年度）会計監査報告書

日本プロテオーム学会の令和6年度（2024年度）の収支決算  
について監査を実施した結果、正確であることを認めます。

令和7年 7月 29日

会計監査 榊原 陽一

令和6年度（2024年度）会計監査報告書

日本プロテオーム学会の令和6年度（2024年度）の収支決算  
について監査を実施した結果、正確であることを認めます。

令和7年 7月 30日

会計監査 川上隆雄 

## 【令和7年度（2025年度）予算(案)】

<b>収入</b>	<b>34,228,564 円</b>
《内訳》	
2024年度繰越金	12,911,428 円
受取会費	
（個人会員）	700,000 円
（法人会員）	750,000 円
事業収益	
（2025年大会開催収入）	15,875,000 円
受取寄付金	270,000 円
受取助成金	3,700,000 円
雑収益	
（利息など）	22,136 円

<b>支出</b>	<b>34,228,564 円</b>
《内訳》	
事業費	
（2025年大会開催支出）	14,631,765 円
（大会準備金）	500,000 円
管理費	
（会議費）	30,000 円
（通信運搬費）	10,000 円
（消耗品費）	10,000 円
（印刷製本費）	300,000 円
（諸謝金）	10,000 円
（支払手数料）	30,000 円
（委託費）	
－ Web運営維持管理費（デザインリンク）	140,410 円
－ Web運営維持管理費（さくらインターネット）	6,600 円
－ 会員管理システム・HP改定管理費（謝金）	240,000 円
－ 会計事務	500,000 円
（雑費）	
－ 学会賞、トラベルアワード関連	300,000 円
科学研究費助成事業費	3,700,000 円
税金	1,200,000 円
予備費（2025年度繰越金）	12,619,789 円

- 上記の通り 2024 年度の会計報告が行われ、監事 2 名によって問題ないことが確認されたことの説明があり、承認された。  
(法人税の計算方法について現行事務所の方法で問題ないことが確認された旨の報告があった。)
- さらに 2025 年度予算案についても説明があり、承認された。

## 2. JPDM 科研費(増田)

- JPDM 科研費についての収支の報告があった。

### 令和7年度JPDM科研費(国際情報発信強化)

**収入** **¥3,700,000**

入出金年月日	摘要	収入
2025.6.30	科研費前期分	2,700,000
2025.10月(予定)	科研費後期分	1,000,000

**支出(2025.4.1-7.24)** **¥346,051**

物品費	旅費	人件費・謝金	その他
0	323,851	20,000	2,200

**残額** **¥3,353,949**

## 3. JPrOS2026 大会(松本)

- (1) 大会長 大槻純男(熊本大学)
- (2) 開催場所 熊本城ホール 3F
- (3) 開催期間 2026年7月21日(火)～7月23日(木)

- 学会会場の熊本城ホール 3F(500 席、250 席、100 席の部屋がある)を貸し切る予定であること、懇親会は、熊本ホテルキャッスルで行う予定であることについての報告があった。また、プログラム案についても暫定案の報告があった。参加費は 2025 年度と同様になる予定であること、予定収支について赤字で収まる予定であることの報告があり、原案について承認された。
- 会計担当より、税務上運営会社の取り分が分かる形での記載が必要かもしれないとの意見があった。  
> 大槻大会長より確認を行う旨回答があった。

## 4. JPrOS2027 大会(松本)

- (1) 大会長 未定  
 (2) 予定開催場所 未定  
 (3) 予定開催期間 未定

- 現在候補の先生に打診中であり、前向きなお返事をいただいているとの報告があった。

## 「参考資料」 年大会開催地／大会長

年	開催地／大会長
2003	第1回 つくば／中西洋志
2004	第2回 東京／戸田年総
2005	第3回 横浜／平野 久
2006	第4回 東京／西村俊秀
2007	第5回 東京／磯邊俊明
2008	第6回 大阪／高尾敏文
2009	第7回 東京／前田忠計
2010	第8回 千葉／山田哲司
2011	第9回 新潟／山本 格
2012	第10回 東京／高橋信弘
2013	第11回(HUPOと合同) 横浜／平野 久
2014	第12回 つくば／成松 久
2015	第13回 熊本／荒木令江
2016	第14回 東京／服部成介
2017	第15回 大阪／朝長 毅 7/26-28, ホテル阪急エキスポパーク
2018	第16回 大阪／石濱 泰 (第66回質量分析総合討論会(日本質量分析学会の年次大会)と第9回AOHUPOとの合同大会) 2018.5.15-18, ホテル阪急エキスポパーク
2019	第17回 宮崎／榊原陽一、松本雅記、大槻純男 2019.7.24-27
2020	第18回 東京／紀藤圭治、堂前直、川村猛 (中止)
2021	第19回 徳島／小迫英尊
2022	第20回 神奈川／小寺義男
2023	第21回 新潟／松本雅記
2024	第22回 青森／近藤格 (第20回日本臨床プロテオゲノミクス学会との合同大会) 2024.6.26-28, リンクステーションホール青森(青森市文化会館)
2025	第23回 千葉／小原收
2026	第24回 熊本／大槻純男
2027	第25回 /

#### 4. 規約の改定

##### 1) 設立趣意書における学会賞の内容について(増田)

[現行]

学会賞の授与

優れた業績を挙げた研究者及び若手研究者にそれぞれ学会賞及び奨励賞を、またプロテオミクス分野で、企業において注目すべき研究や技術開発で業績をあげた本会会員または本会会員を主たる構成員とするグループに対して日本プロテオーム学会研究開発功績賞を授与します。また、年会で優れた発表を行った研究者にポスター賞を授与します。受賞者選考の方法についてはできる限り早く検討することになります。受賞者には賞状と記念品を贈呈します。

[改訂案]

学会賞の授与

優れた業績を挙げた研究者及び若手研究者にそれぞれ学会賞及び奨励賞を、またプロテオミクス分野で、企業において注目すべき研究や技術開発で業績をあげた本会会員または本会会員を主たる構成員とするグループに対して日本プロテオーム学会研究開発功績賞を、**本会の運営や発展に多大なる貢献が認められる会員に対して功労賞を授与します。海外での学会発表や研究活動を行う若手会員に山下雅道賞を、国際学会におけるプロテオーム解析に関する研究発表する会員に Presentation Award を授与します。**

● 上記の変更について審議され、了承された。

##### 2) Presentation Award 選考規定について(増田)

[現行]

###### 2. 受賞資格

受賞の候補者は次の条件(1)～(4)のすべてを満たす者とする。(1)本学会の会員であること、(2)受賞年のJPrOS大会および、HUPO年会またはAOHUPO年会、にて発表を予定していること、(3)受賞年の4月1日において40歳未満または学位取得後8年以内であること。また、独立ポジションに就いている方は除く。

[改訂案]

###### 2. 受賞資格

受賞の候補者は次の条件(1)～(3)のすべてを満たす者とする。(1)本学会の会員であること、(2)受賞年のJPrOS大会および、HUPO年会またはAOHUPO年会、にて発表を予定していること、(3)**原則として**、受賞年の4月1日において40歳未満または学位取得後8年以内であること。また、独立ポジションに就いている方は除く**(ただし各大会の応募規定に準ずる)**。

● 上記の変更について審議され、了承された。

##### 3) 第17条2(学会賞選考委員会)における賞の内容について (増田)

[現行]

第17条2(学会賞選考委員会)

副会長及び理事による無記名選挙で理事から選ばれた5名を学会賞選考委員とし、副会長を委員長とする学会賞選考委員会において日本プロテオーム学会賞、日本プロテオーム学会研究開発功績賞及び日

本プロテオーム学会奨励賞、日本プロテオーム学会功労賞受賞者を選考する。学会賞選考方法については別に定める。

[改訂案]

第17条2(学会賞等選考委員会)

副会長及び理事による無記名選挙で理事から選ばれた5名を学会賞等選考委員とし、副会長を委員長とする学会賞等選考委員会において日本プロテオーム学会賞、日本プロテオーム学会研究開発功績賞及び日本プロテオーム学会奨励賞、日本プロテオーム学会功労賞受賞者、山下雅道賞を選考する。学会賞等選考方法については別に定める。

● 上記の変更について審議され、了承された。

以上